

平成26年

第3回定例会

会議録

(第2号)

平成26年 9月8日

平成26年第3回 江 差 町 議 会 定 例 会
(第 2 号)

◎ 期日及び場所

平成26年9月8日(月) 午前10時00分 江差町役場 議場

◎ 議事日程

日程第1 一 般 質 問

◎ 出席議員(12名)

議		長	打 越	東 亜 夫
副	議	長	室 井	正 行
議		員	小 笠 原	満
	〃		薄 木	晴 午
	〃		飯 田	隆 一
	〃		小 野 寺	真
	〃		小 笠 原	淳 夫
	〃		若 山	明 廣
	〃		大 門	和 子
	〃		萩 原	徹
	〃		小 林	栄 治
	〃		折 戸	幸 博

◎ 欠席議員(0名)

◎ 出席説明者

町		長	照	井	誉	之	介
副	町	長	長	谷	川		篤
教	育	長	新	木	秀		幸
総	務	財	澤	口	純		一
政	策	推	田	畑			明
町	民	福	太	田			誠
環	境	住	結	城	孝		好
建	設	水	大	坂	敏		文
追	分	商	大	杉	則		明
農	林	水	出	崎	雄		司
ひ	の	き	広	島	良		二
学	校	教	木	村			晃
社	会	教	尾	山			徹
総	務	財	竹	内			強
政	課	総					
務	係	長					

(議会事務局)

局	長	小	田	島	訓
書	記	秋	山	悦	子

開 会 10:00

(議長)

おはようございます、ただいまの出席議員は11名です。
定足数に達しておりますので、会議は成立致しました。

(議長)

本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

(議長)

日程第1、一般質問を行います。
今定例会の一般質問は、お手元に配布のとおり7名の議員から通告がありました。
通告順に従って、順次これを許可致します。

(議長)

まず、「室井議員」の発言を許可致します。
「室井議員」。

「室井議員」

おはようございます。

(議長)

おはようございます。

「室井議員」

まず質問に入る前に、今回の私の質問はですね、あなたが後援活動と選挙戦の中、公に約束、発言した中からのみ3問に絞っております。町政の運営理念、方向性について、基本的な価値観をとっております。従ってですね、飯田議会運営委員長からの議会運営の報告通り、説明補助員が答弁できるような内容のものでもないし、一切認めないということをですね、事前に通告しておきます。質問はですね、具体的、明瞭に通告してございます。曖昧な答弁は議事進行で、政策の相違に対しての追及は再質問、再再質問と補正予算関連質疑の中で厳しく追及しますので、明確に答弁をしてもらいたいと思います。

あなたはですね、北海道新聞社8月30日付の社説を読んでおられますか。あなたがつい最近まで勤めていた会社じゃないですか。読んでますか。私、最後の方だけ読みます。これは札幌市長選挙に絡んでることをですね、社説として取り上げた大変重

要なものだと私は認識してあなたに報告しておきます。「札幌市の課題を乗り越える青写真とそこに至る具体的な道筋、市長選に出馬するならその提示が欠かせない」。あなたはこの社説に反論できますか。公に町民に約束したことについてその資質を問うているんです。そのことを十分認識していただき、私の質問に対し、答弁に備えていただきたいと思います。

まず第1問。「しがらみ」についてでございます。私はあなたの後援会の発刊した資料全部読んでます。インターネットでも調べました。私の答弁にきちっと答えてもらいたいと思います。今、私はですね、自分の選挙で5回、町長選挙で2回、道議選挙で7回、知事選挙で3回、国政選挙ではですね数えきれないほど選挙活動に携わってきました。その中でですね、今回の町長選挙ほど、私のですよ、心と濱谷町政を支援した多くの町民感情に傷付け、マナーの悪さを痛感した例はありませんでしたよ。本音は別として、お互いにですね、エールを送るものだと私は政治家のはしくれとしてそういう認識をしていますよ。対立候補、濱谷候補選挙事務所前を通過する、夜8時前、必ずあなたの選挙カー、遊説車からあなた本人かあなたのカラスか特別な大きな声を張り上げて何と叫びましたか。記憶にないってことは言えませんね。十分ご承知のはずですよ。「しがらみ」のない街づくりを作ります。また選挙公約を新聞に折込し、強く主張した「しがらみ」と利害関係、まるで濱谷町政を支持した方々に対し、犯罪者に罵声を浴びるようなそういう言動でなかったですか。そのような言動、姿勢、認識しか無かったのかと思えば、誠に残念で、あなたの前途に、私は疑いがかかります。濱谷町政を支持した、多くの何の組織にも入ってないごく一般の町民の方々や、江差町だけでは事業やっても商売にならない、そう考えて江差町のみでなく遠くまで行って仕事を受注し頑張っている若い企業経営者、2代目の経営者もたくさんおりましたよ。あなたは何と心得てるんですか。私は濱谷町政を支持した約2,500人の町民の名誉のためにですね、あなたがしっかり反省し謝罪しない限り、私の残された任期、このバッジをかけて、これから追及していくことになります。一体、濱谷町政とどここのどの団体、どの組織が「しがらみ」と利害関係があると認識されたのですか。あなたは十分認識されていたから、強く主張されたのではないですか。曖昧で中途半端な答弁でなく、私の質問通告通り、具体的に2つの事例を明確に答弁してください。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

室井議員の質問にお答え致します。ご質問の趣旨は私の政治姿勢のご質問と受け止めます。町政を司るものは、住民目線に立って、町政運営を遂行していくべきもの、これが私の信念であります。職員にもそのことを意識して仕事をしていただく旨、訓示を致したところでございます。町政運営は公正公平なものでなければなりません。透明なものでなければならないと思っております。社会の中にあっては、人は「しがらみ」や利害関係に左右されやすいものであろうと思っておりますが、公正公平な町政運営を目指す上では、こうした「しがらみ」や利害関係を乗り越えていかなければならないと考えております。ご質問は具体例を挙げてとのことなので、強いてご答弁申し上げます。

ひとつめは私には江差町内に親戚・縁者がございません。従いまして、「しがらみ」とは無関、無縁であるというふうに思っております。確かに選挙期間中に私を応援してくれた方々はたくさんおります。だからと言ってこの方々だけに目を向けて町政の取組みを行うということは決してありません。町民ひとり一人、町内全体を考えていく江差町にしてまいります。

ふたつめは、私は新聞記者時代から特定の団体や組織と偏ったお付き合いはしていないということでありまして。それは選挙期間中も同様でございました。これからも町政運営を進めて行く上では、利害がふくそうする課題も出てくることは思いますが、住民目線で町内全体のことを考えて取り組んでまいります。

先ほど述べましたように、「しがらみ」や利害関係を乗り越えて、町政運営を行っていかねばなりません。その中で、町民の皆さん、議員の皆さんと信頼関係を築くことが最も重要だと思っております。以上で終わります。ご理解宜しく申し上げます。

「室井議員」

議長、議事進行。これは再質問でないですよ。

(議長)

「室井議員」。

「室井議員」

はい、私の質問に答弁されてませんね。飯田議連の委員長どう考えますか。

「飯田議員」

議長、暫時休憩を求めて、議会運営委員会を開催致します。

(議長)

はい。暫時休憩致します。

(議会運営委員会開催)

(議長)

休憩を閉じて再開致します。

ただいま、議運行われましたので、議運の委員長からそれぞれ報告をお願い致します。

「飯田委員長」

議長。

(議長)

「飯田委員長」。

「飯田委員長」(議会運営委員会報告)

おはようございます。ただいま、室井議員の一般質問の中で第1問目の「しがらみについて」という質問。特にこの選挙期間中の町長もしくは関係者の発言についての質問でございます。室井議員の指摘につきましては、一般的な友達、友人、親戚関係を指す、そういう人間関係の「しがらみ」。もう1点につきましては、例えば役場と利害関係のある、例えば業者でありますとか、そういう部分の関係を指しての「しがらみ」。室井議員はこの2点を称して町長に指摘をしたわけでございます。特に選挙期間中について、相手陣営、濱谷陣営の前を街宣車が通って、「しがらみ」という言葉を発言したと。室井議員はそれに対して先ほど言った親子・親戚の「しがらみ」、それとは別に利害関係人の業者との利害関係、「しがらみ」があるというふうな捉え方をされる。相手にそういう印象を与えたという部分を指して町長に撤回と謝罪を求めたわけでございます。ただ、両者、室井議員、そして町長を委員会に呼んで、出て頂きまして整理をした段階では、話し合いはつきませんので、このまま一般質問を続行させていただきます。委員会の審議の結果については以上でございます。

(議長)

はい、それでは2問目の質問。

「室井議員」

はい。

(議長)

「室井議員」。

「室井議員」

あの、議運のですね、委員会報告ですから、私も議運の1人として尊重します。よつてですね、再質問、再再質問、続行させてもらいたいと思いますが、議長よろしいですね。

(議長)

はい。

「室井議員」

町長、何故、あなたはその思いあつたらですね、所信表明にきちつと謳わないんですか。あなたの後援会だよりですね、こんなに大きく書いてるんですよ。こんなに大きく、見てください。書いてるんですよ。これもっと主張すべきじゃないですか。私は今後一切「しがらみ」や利害関係者とのお付き合いは一切しません、ぐらい書いていいんじゃないですか。

それと、これは江差民報6月19日発刊の一番最後、照井さん、これ見えますね。読みますか。これ公に出されたものですから。照井氏の特定の団体との「しがらみ」を無くすという考え方を尊重し、日本共産党として実質的に支持することになりました。これそのままです。それでですね、町長きちつと認識してもらいたいんですよ、私は。私に言わせるとですね、あなたが今、拒否しました。あなたずっと垣根作ってやっていくんですか。少なくともですね、濱谷さんだけじゃない、横山さん、田畑さん、頑張つてやりましたよ。この方々と垣根を作つて町政運営できますか。私は垣根を少しでも撤去してやりたい、そういう思いがあつて言ったんですよ、私は。あなたは全然理解してない。でも、今ここで問いません。まして所信表明にこれだけ大きく書いたことがね、無いっていうの本当に不思議。何かあなたにとって都合悪いことが出来たのかなつて思うぐらいであります。

それで、時間の関係上もありますから私ひとつ、ふたつですね、きちつと確認しておきたいことがあります。じゃあ今後、江差町職員労働組合との一切そういう支援も何も受けないと考えていいかということひとつ。

それともうひとつ言います。町長、行政というのは限界があるんです。民間の色々な情報を持ってきて、江差町のためにぜひやって貰いたい。貴重な情報源を持つてる方も町内にはたくさんいるんですよ。町内には。そういう方々の大事なことでないかなと私は思うんですよ。それは、特定の会社に入つたり企業に入つたりしてる方がおられますよ。どうもあなた方の目から見るとですね、そういう方も何か濱谷町政と「しがらみ」を持って何かをやつてきたとしか見てないんじゃないですか。非常に疑念感じますよ。行政だけでやるつてことは限界があるんです。民間の力を借りなくてはなりませんよ、これか

ら。

いいですか。ひとつだけ言っておきます。今、砂川浄水場、砂川にですね、道南で初めての産業廃棄物の管理型施設今建設中ってこと、町長ご存知ですね。これ、誰誘致したと思いますか。北海道に何カ所も無いんですよ。我々建設会社、耐火ボードわかりますね、こういう建材どこに持って行ってるとと思いますか。蛍光管、石狩市ですよ。白老、こういうところに持って行ってんですよ。あれ誘致した人、誰だと思いますか。江差町にお世話になりましたよ。私は事業所から相談受け直ちに役場に話して、これを今誘致しないとダメだと。道南初めての施設ですよ。こういうのも前町長と信頼関係で、こういうのがあると、早く誘致してくれ。直ぐ江差町長はできることは早急にやってくれ。その対応の早さにはですね、事業者がビックリしたぐらい早く認可おり、工事今進めています。11月に完成なりますよ。これからどういう方向に向かって行くんですか。壁があったら撤退しなくてはだめだったと私は思ってるんですよ。時間がかかっても、あなたには少しそういう認識が無いんでないですか。きちっとね、少なくとも、あなた以外に応援した人方に対してですね、コメントなり出す必要があるんじゃないですか。親も兄弟もないとか、そんなものね、わかってますよ。それはそれでいいんです。でも選挙戦で戦った、そのことはですね、きちっとコメント発すべきじゃないですか。いかがですか。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」

「町長」

まあ私の発言あるいは選挙期間中の発言、あるいはその利益誘導とかそういうことに関する質問だというふうに思っております。まずですね、私は選挙期間中、他の候補のことをですね、批判したりあるいは悪口を言ったりいうことはしていません。私自身の思いやあるいは姿勢について述べてまいりました。その中で、「しがらみ」がない、先ほども申し上げたとおり自分には地縁・血縁も無く、あるいは団体との深いつながりも無いということで、私はその政治姿勢をアピールしてきたつもりであります。そういうなかで、濱谷陣営という具体的なあの名前が出ましたけれども、私は濱谷さんともあるいは横山さん、あるいは田畑さん、4人の中で戦った選挙戦であります。特定の候補だけと戦っていたわけではないので、それがですね、イコール私が、私自身の「しがらみ」がないということが、イコール濱谷さんの「しがらみ」があるということには、私は繋がらないというふうに認識しております。また、労働組合との関係ですけれども、労働組合、町職員

組合も組合員の皆さん、あるいはそれも町職員のひとりであります。しっかりですね、組合の皆さんともお話をしながらやっていく。その姿勢を拒むものではありません。私は、決して壁を作って行政をやっていくつもりはないというふうに認識しております。私は、まあ新聞、報道などの取材に対してもですね、敵、味方を作らず、一丸となった町づくりをしていきたいというふうにお訴え、あの申し上げてきました。そういう中で私は、今の段階で全く敵も味方もいないというふうに思っています。支援してくれた方、非常にありがたいですけども、そういう方々に対して利益誘導的な政治を私は行ってはいけません。そういう思いを一致させ一致したからこそ、応援していただいたんだというふうに思っております。そういうことをですね、あの室井議員には理解していただき、今後も一緒に汗を流して江差町のためにやっていきたいと思っておりますので、ご理解宜しくお願い致します。

(議長)

済みません。ちょっと室井議員。

傍聴者、今立って聞いている方、席が無かった場合ですね、退場をお願いしたい。場所あるんじゃないですか。はい、ありがとうございました。

(議長)

はい、室井議員。

「室井議員」

まああの、町長ですね。もう少し腹を割ってね、私は話してもいいと思いますよ。その前段の、私は江差に3年間しかいない、親戚も知人もいない。じゃあはっきり私言いますよ。私はあなたの、あなたを一所懸命応援した若い人方と選挙前からですね、偶然会った場合、私何て言ったと思いますか。頑張りなさいと、大変でしょと、堂々とやれって私言っていましたよ。でも、あなたの遊説車から聞こえる言葉はね、そう簡単に逃げないでください。そういうふうに映ったんですよ。これは選挙事務所、横山さん、田畑さんの事務所どういうふうに通ったか私は知る感知もありません。でも、通った時にそういう感情抱いたのは私だけでないんですよ。あなたは今さらつとですね、私の質問からかわしていこうと思ってるんですけど、本当は違うんじゃないですか。言葉が不適切だったとか、そう思うのであれば、そういうのが全く無いってことでいいんですね。再質問、再再質問ですから。

「町長」

議長。

(議長)

はい、「町長」

「町長」

議員ご指摘のような意図は全く無かった。私自身の問題、私自身の立場として選挙戦訴えたということだけであります。

(議長)

はい、次に、3回目の質問終わりました、2番目の質問に入ります。

「室井議員」

まあ、後でまた。

(議長)

はい、「室井議員」。

「室井議員」

ゆっくり話したいと思います。

まあ、あなたの、あの、2問目に入ります。公約の中で、必ず実現する公約の中に入っております、JR江差線廃止後の土地やレールの有効活用についてでございます。具体的にはいつの段階で何を実現するのか。これは明確に答弁してください。

なお、JR北海道より提示された木古内、上ノ国、江差町3町の協議会に対し、10年間の代替バスの運行補助費、約9億円については言うまでもなく、また、駅舎、レールなどの解体撤去の代行事業は当然政策範囲外であります。議論にはなりません。選挙の公約の重要な政策約束ですから、江差町の大きな財政負担が伴うものであり、財政規律と平衡して答弁を願いたいと思います。あなたの重要な選挙公約でありながら所信表明には何ひとつ書いておりません。何故なのか、併せて答弁願いたいと思います。私は全部読ませてもらいました。全部。確認します。入ってません。駅舎、レールなどの解体撤去工事とJR北海道代行事業として江差町が行うことができる、大変いいことだと私は思います。担当課長のですね、尽力も去ることながら、JR北海道に対し強く要請し、実現させた濱谷前町長の力量、私は高く評価し、敬意を表しておりますよ。あなたはどのように認識、理解されているか素直に答弁してください。

(議長)

「町長」

「町長」

JR、JR江差線廃線後の土地やレールの有効活用における実現する具体的な計画と実施時期については、とのご質問でございます。現時点でお答えできる範囲で答弁させていただきます。鉄道用地はレールや枕木などの施設物を含めて江差町に一括無償譲渡されることで事前協議を終えておりますが、江差町、上ノ国町、木古内町それぞれ3町への正式な譲渡契約の時期は、国の手続きなどもあって10月頃になると、なる予定とJR北海道から伺っております。鉄道用地が町に移管、譲渡されるものですが、その中で特に駅舎周辺用地の利活用をどうするのか。または鉄路廃線後のインフラ整備については、一定の方向付けをしなければならないと考えております。なお、方向付けに当たっては、財源対策を持たなければなりませんし、制度補助の活用なども視野に入れなければなりません。いずれに致しましても、跡地等の利活用計画においては、地域や議会議員の皆さまにもご意見をいただきながら進めてまいりたいと考えております。従いまして、現段階での具体的な計画の明示は困難でございますので、ご理解をお願いしたいと思います。以上でございます。

「室井議員」

よろしいですか。

(議長)

「室井議員」。

「室井議員」

はい。まあそうだと思いますよ。これから十分な協議が必要になると私は思います。ただどですね、私はこの問題に関しては知恵を出して今から検討されなきゃならないと思っておりますよ。例えば駅舎、レールの撤去、解体撤去費、JR北海道からこれだけですよと提示されてから、多い少ない、そんな議論はですね、何の政策提案にもなりませんよ。駅舎やレール、解体撤去されたら江差町にこんな課題があります。これだけは江差町として是非やらなければならない。事業メニューとの選定と基本構想、事業費の概算、すぐやらなければならないと私は認識しております。それが政策というものじゃないのですか。提示されてからああでもないこうでないと、JR北海道に駄々をこねるようなそういうことはするべきでない、政策の後手になります。玉を用意する、後手後手にならない。JR北海道と事前協議しっかりする。

我々は本年5月11日、江差駅で何のためにあんな大きなイベント開催したのかわかりますか。道新の文、あなたの勤めてた会社の号外ですよ、これ。ここまでやってくれましたよ。駅前に78年間ありがとうっていう木柱が建っているのご存知ですか。本年2月、北海道建築士会檜山支部総会で私が提案して、誰からも道からも補助金もらってない

で建築士会が自力で建てたんですよ。5月11日、JR北海道の島田社長も来られました。大変感動されたと同っております。私の今提案した内容について、いつの段階で、もう時間的余裕はないはずですよ、我々に提示してくれるんですか。答弁してください。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

ただいまのご質問に対してお答えします。JR跡地などの利活用策を含めて私自身も含めてですね、早期に関係課長集めて検討していきたいというふうに考えております。しかるべき、しかるべきタイミングで議会の皆さんにもご意見を頂戴して、計画などの策定に取り組んでまいりたいというふうに思っておりますので、ご理解お願い致します。

(議長)

はい、「室井議員」。

「室井議員」

あの3町絡みます。これはですね、今後どういうふうに江差町として玉を用意するか。大変な苦労があると思いますよ。いずれにしても大きな財政負担がかかります。そのことも十分認識されていると思いますけど、早めにですね、議会に江差町としての案が出来たら提示してもらいたいと思いますけど、いつ頃になるか答弁してください。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

ただいまのご質問、いつの時期にということですがけれども、早急にということでご理解願いたいと思います。

(議長)

はい、次に3番目の質問か。3番目だな。

はい、「室井議員」。

「室井議員」

3問目もですね、あなたの選挙公約、また所信表明の中に入ってます。宿泊施設に対する整備費支援と誘致です。宿泊施設が足りない、何かの大きなイベントがあった場合不足してる。これは十分承知しております。ただですね、きちっと理解しておかなくてはならないことが私はあると思いますよ。この宿泊施設に対してはですね、二つの方向で検討しなくちゃならない。ひとつはですね、例えば姥神大神宮のお祭り、追分大会などに対応する臨時的供給量に対する考え方。もうひとつは恒常的な観光客の来町、宿泊者対応。これは分離して考えないと、この宿泊施設の問題は決して前には進まない。こういうふう理解しております。宿泊施設、企業誘致、公約、所信表明されておりますが、問題点を十分検討されたのですか。例えばですね、施設の整備に対する財政支援、100%補助でない限り事業者には大きな財政負担がかかりますよ。そういう協議をした上で所信表明に書いているのですか。

ふたつめ、宿泊施設の誘致。既存経営者への悪影響シミュレーションされてますか。あればいいっていう漠然な表明ではないのですか。既存はどう守っていくのかっていうことが大事でないですか。シミュレーションあったら提示してください。

それと新幹線開通対応に備えるって所信表明に書いております。今、念頭に置いている考え方、どういうふうになればいいのか、総括的に答弁してください。私はあまり早急な結論を安易に出すべきでないと考えております。既存経営者がまず生き残れる工夫を検討され、その上で町民のご理解を得て大きな政策転換を図るっていう二つの方向からこの問題を解決しなかったら、前にも行かない、こういうふう思うのですが、あなたはどう思うか答弁してください。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

ただいまの室井議員の宿泊施設整備に対する具体的な政策と予算化についてのご質問でございますが、現在のホテル、旅館等の宿泊施設数は公設も含め、11件で、収容人員は390人となっております。姥神大神宮渡御祭や江差追分全国大会開催時には近隣町の宿泊施設を含めてもキャパシティが足りないという状況ですが、年間を通した稼働率は25.9パーセントと決して高い状況ではございません。宿泊施設の魅力度もひとつの原因だと考えられます。一例を挙げますと、施設のトイレやあるいはお

風呂、部屋の老朽化などがあります。しかし、これらの改修には多額の費用負担が生じることから、経営者もなかなか改修に踏み切れないというのが現状であると認識しております。これに係る経費の一部を助成することによって、施設の改修を促進して、宿泊施設の魅力度をアップして、宿泊数の増加を図り地域の活性化に繋がりたいというふうに考えております。今後、各施設の改修に対するニーズの調査を行って、施設の支援の具体的な案を取りまとめたいというふうに思っております。

また、新たな宿泊施設の誘致でありますけれども、江差への宿泊ニーズを含めて、高め、宿泊施設の稼働率が上昇しなければ新たな宿泊施設の誘致には繋がらないというふうに考えております。今後は江差観光コンベンション協会や江差旅館組合等関係団体とも協力して一般観光客に加え、外国人観光客の誘致や観光以外の会議や大会などのコンベンション誘致活動にも力を入れて、宿泊者数の増加と、宿泊ニーズの上昇を図りながら、併せて新たな宿泊施設の誘致にも努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

「室井議員」

議長、議事進行。

(議長)

「室井議員」。

「室井議員」

あの質問の答弁がない。予算化、いつの時期、ちゃんと聞いて、議長自ら言ってください。

(議長)

室井議員の質問は答弁漏れということで、今室井議員の言ったとおりですね、そのことについて考えてる範囲内で、答弁をお願いしたいと。

「追分商工観光課長」。

「追分商工観光課長」

はい。室井議員からのご質問でございますけれども、これは江差町のあの抱えてる継続的な課題でございますので、私のほうからご答弁をさせていただきたいと思っております。時期につきましてははですね、現在のところまだ未定でございます。早急に調査等進めながら、改修施設のニーズの確認をしていきたいなというふうに思っています。これがしっかりした上で、財政的な支援措置がどの程度できるのかということを内部協議しながらですね、改めて議員の皆さまにもご相談していきたいというふうに思ってお

ります。以上でございます。

「室井議員」

議長よろしいですか、再質問。

(議長)

はい、「室井議員」。

「室井議員」

それですね、町長。私はですね、例えば姥神まつり、追分大会、圧倒的に足りなくてお寺や個人の家泊っております。何故町の集会施設が使えないのか。町長ご存知ですか、何故使えないのか。まず消防法。ご飯食べたり、食品衛生法。建築基準で言えば内装制限、いや、二方向避難。こういう問題があるから泊れないと言っているんですよ。でも、これは役所対役所の口上ですよ。泊れないって頭から拒否する必要はない。私はできると思うんですよ。少なくとも今年はまだ間に合いません。来年以降の姥神のまつり、追分大会、こういうのにできないはずがないんですよ。町の持っている施設を、もしそういう制限上使えないとしたら一部を改修して使わせる。出来るんじゃないですか。と思っておりますよ、私は。新たに何かホテルか旅館を誘致する。まだ早い。思いはあっても、地元で今経営してる人達だって閑散期の宿泊者の減少でどんなに経営が圧迫されているか。ちゃんと確認してから、誘致その問題をやらなくてはダメだと思っておりますよ。軽々しくそういう旅館業者を誘致してくる、そのことによって既存の今の施設が衰退したらどうなりますか。軽々しく言うべきでないと私は思うんですけど、再答弁ですのでひとつお願いします、再質問。

(議長)

「町長」。

「町長」

ただいまのご質問。まず、町内にある集会施設が使えないかどうかということでありまして、そういうものも含めてですね、今までどういう経緯でなってきたかということも含めて精査しながら、できることを着実にやっていくということを行ってまいりたいと思います。また宿泊施設の誘致はまだ早いということでございますけれども、私は第一にこの問題で訴えてきたのは、今ある既存施設をいかに廃業させないかということを中心に私は主張してまいりました。その中で、この改修に対する補助ということも考えられるのではないかとということで、選挙期間中訴えました。それと同時にまたそこからですね、それが出来た後に宿泊施設の誘致ということで広げていきたいというふうな考えを持って

おります。なのでですね、それを同時並行的に両方やるのではなくて、まず既存施設を守るという態度を明確にして、そして支援も行った後に、宿泊施設の誘致を考えてまいりたいというふうに思っておりますので、ご理解願います。

(議長)

はい、「室井議員」。

「室井議員」

いいよ。いいよ。

(議長)

3問目の質問。いいですか。以上で終わりだな。

(議長)

室井議員の質問が終わりましたので、11時15分まで休憩致します。

(休憩中)